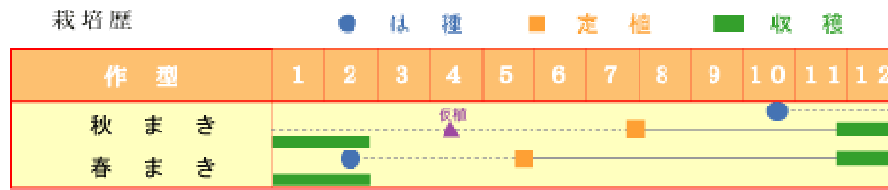


下仁田ねぎ



栽培ポイント

(1)品種の特性で他ネギに比べ萎縮病に罹病しやすく、育苗初期からアブラムシの総合的な防除対策を徹底します。

品種・播種

■ は種期

- ・ 秋播き : 10月中～11月上旬
- ・ 春播き : 2月下旬～3月中旬

・ 秋播きでは早すぎると、苗が大きくなりすぎて春の**抽苔**の原因になり、遅すぎると寒害をうけて枯死する場合があります。

■ は種

平床に条間10cmに条まきし、覆土は3mm位行います。は種直後にポリをべた掛け被覆して発芽揃いを上げ、発芽直後にポリを取り除きます。

発芽後にアブラムシの防除対策として、寒冷紗のトンネル被覆を行います。

気温や日長などにより花をつけた茎が伸びだすことを抽苔という。別名、とうだちともいう。

育苗

■ は種床

地力が高く、排水、日当たりが良い所で、極力連作を避けます。

■ 追肥

生育が遅れている場合には3月上旬に尿素を0.5a当たり800～1000g散布します。

仮植

■ 仮植床

冬期間に深耕しておき、3月中旬頃に堆肥、改良資材等を施用します。仮植床面積は、本圃10a当たり6a必要です。

■ 仮植時期

4月上～下旬を適期とするが、苗の生育状態を見て時期を決定します。大きめの場合は早め、遅れている場合は遅めの仮植をします。

■ 仮植

病害虫に侵されていない、長さが25～30cm葉数3枚くらい葉色の濃いものを仮植します。畦幅35～45cm、株間5～8cmで、深さは3～5cmとします。なるべく東西植えとし、植え溝も北側へ土を高く盛り上げ地温を高めます。

■ 追肥

5月下旬に10a当たり成分でN,P,Kともに5kgくらいとします。

■ 中耕

6月に除草をかねた中耕を行い、酸素を補給します。

🌱 ほ場準備

■ 圃場選定

排水の良い肥沃な土壌を選びます。

■ 施肥

10a当たり成分量で、N, P, Kとも20 kg程度とし、そのうち元肥として60%と、残りを2～3回に分けて、追肥として施用します。

🌱 定植

■ 定植時期

7月中旬～8月中旬。天候状態を見定めてできるだけ早く定植します。

■ 定植苗の条件

病気(特に萎縮病)のないもの。

系統的にそろっているもの。

葉が正しく互生して襟のしまっているもの。

がっちりした大苗で、白根がまっすぐなもの。

以上のもので草丈35～40cm、葉数5～7枚くらいの苗を選別します。

■ 定植

畝幅65～75cm、株間9～12cm、深さ8～10cmで植えます。葉の方向を畦に対して45°にそろえると、日照や通風が良くなり後の管理作業もやりやすくなります。

🌱 定植後の管理

■ 中耕

通気性を良くする目的で土壌の表層を浅く耕す作業を中耕という。除草と同時に行うことが多く、この場合、中耕除草という。

湿害防止と土中の酸素補給のためと除草をかねて中耕を行います。

■ 土寄せ

一度に多くの土を寄せるのではなく2回程度にわけて土寄せをします。1回の土寄せ量は5～7cmで最後の土寄せで葉の分岐部の所までになるようにします。収穫予定日の30～40日前までには終わらせます。

■ 追肥

生育状況に応じて、中耕・土寄せ時に行います。また、収穫期が1月以降になる場合は、11月上旬に1回分(量は通常の半分)を追加します。

作物の株元に土を寄せる作業をいい、植物の株元を保護するために行う。根深ネギなどは、白根を作るために日光を避けたために行われる。

🌱 主な病害虫と防除対策

■ さび病

夏期の低温多雨で多発するので、肥切れをおこさないようにします。

■ 萎縮病

幼苗、仮植期に感染しやすいので、アブラムシの防除を徹底しましょう。

■ 黒斑病・べと病

長雨や多湿条件下で発病が多いので、排水を良好にします。

■ 黒腐菌核病

石灰を施し、土壌の酸性を矯正します。

■ 白絹病

高温多湿で多発し、酸性土壌や未熟有機物の株元施用で助長されます。

■ アブラムシ・ネギアザミウマ

高温・乾燥条件下の発生が多いので、初期および予防散布を重点に防除しましょう。

🌱 収穫

収穫適期は11月下旬～12月中旬で、霜に2～3回あった頃が甘みがのってきます。掘取ったネギは夜露や霜にあたらない場所で2日間干します。1月以降は低温による葉枯れが目立つので、できるだけ年内に収穫しましょう。